

金融リテラシーを育む経済学習
～ファイナンシャル・ウェルビーイングをめざして～

授業者 附属池田中学校 田中誠也

1. 対象 附属池田中学校第3学年 A 組 (37名)

2. 単元目標

・知識及び技能に関して

身近な消費生活を中心に経済活動の意義、市場経済の基本的な考え方、現代の生産や金融などのしくみや働き、勤労の権利と義務、労働組合の意義および労働基準法の内容について理解する。

社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護について、それらの意義を理解できる。また、財政および租税の意義、国民の納税の義務について理解する。

・思考力、判断力、表現力等に関して

個人や企業の経済活動における役割と責任、社会生活における職業の意義と役割および雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考察し、表現する。

市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。また、財政および租税の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。

・学びに向かう力、人間性等に関して

市場の働きと経済について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養う。

国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養う。

3. 指導に当たって

(1) 単元を通して育む「グローバル市民」と学習との関連

①グローバル市民の選択項目「探究力のある人」

「自らの問題として、身近なコミュニティから課題を見出し、その解決に向けて取り組み、振り返りながら追究することができる。」

②単元との関連

経済分野の学習では、経済学の基本的な見方・考え方を学習する。経済学の基本的な見方・考え方は抽象的な面もあるので、具体的な社会事象を用いて理解することが肝要である。生徒にとって身近なコミュニティには、さまざまな経済社会の課題が見られる。それらの課題を多面的・多角的に考察することが、「探究力のある人」を育成することにつながると考える。

③目標達成するためにつけるべき力

i) 問題把握力 (社会的事象に内在している問題を発見し、それに対して問いを設ける)

ii) 問題追究力 (問題の解決策としての対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などの経済的概念を用いて思考・判断できる)

iii) 問題解決力 (問題としての問いと解決策に用いた経済的概念を踏まえ、実際に問題を解決していくプロセスをとる)

(2) 教材観

① 学校における金融教育の年齢層別目標

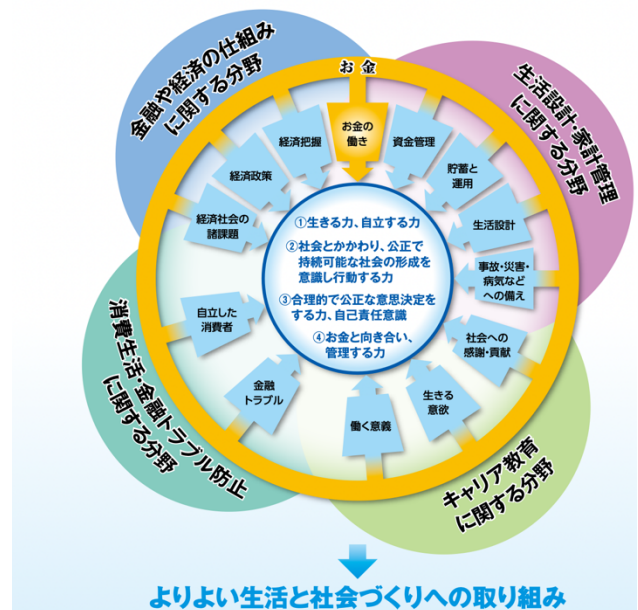
金融広報中央委員会が発行している『金融教育プログラム—社会の中で生きる力を育む授業とは—』によると、金融教育について、以下のように定義されている。

金融教育は、お金や金融の様々な働きを理解し、それを通じて自分の暮らしや社会の在り方について深く考え、自分の生き方や価値観を磨きながら、より豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて、主体的に判断し行動できる態度を養う教育である。

金融教育で取り扱う内容の多くのものが公民的分野の経済学習において、有効である。お金や金融に関する知識を学習して、よりよい社会づくりについて考えることが重要であると考えます。金融教育で取り扱う内容を全て本単元で扱うわけでないが、本単元で扱うことができるものを取り入れて、単元を計画した。

そこで、金融広報中央委員会が作成した「学校における金融教育の年齢層別目標」（以下、「年齢層別目標」）をもとに、学習内容を単元計画に取り入れることにした。「年齢層別目標」は、小学校、中学校、高等学校で身につけるべき金融リテラシーについて、4つの分野と重要概念について整理されている。右図は、「年齢層別目標」に示されている図である。達成する目標には、学習指導要領に照らし合わせて、達成する目標を学習する教科も示されている。「年齢層別目標」を活用することで、経済学習の充実と金融リテラシーの確実な育成を図ることができるのではないかと考えた。単元計画の学習内容には、「年齢層別目標」に示されているものを示している。「年齢層別目標」において、教科名が示されていない部分については、本単元で取り扱うことができるものは、単元計画に盛り込むこととした。

◆金融教育の4つの分野と重要概念



② 社会科教育と金融教育の関係

本単元は学習指導要領、内容項目B私たちと経済(1)市場の働きと経済、(2)国民の生活と政府の役割を取り扱っている。小学校では、第3学年「地域の生産・販売」、第5学年「我が国の農業や水産業」「我が国の工業生産」「情報産業と情報化した社会」において、経済的な概念について学習している。その内容を受けて、本単元の実践となる。本単元は、本格的な経済的な概念を身につける機会となっている。

現代社会の見方・考え方として、①対立と合意、②効率と公正、③分業と交換、④希少性の4つが、学習指導要領では提示されている。『金融教育プログラム』には、重要な概念として、⑤選択、⑥機会費用、⑦トレード・オフ、⑧長期的視点、⑨情報の非対称性、⑩市場、⑪公正で持続可能な社会、が提示されている。本単元において、①～⑪の概念を経済社会の見方・考え方として定義し、指導の中に活用していく。経済社会の見方・考え方の確実な理解を促す指導計画を考える必要がある。

(3) 児童・生徒観

① 15歳のお金とくらしに関する知識・行動調査

金融広報中央委員会が「15歳のお金とくらしに関する知識・行動調査」を実施している。調査の趣旨として、義務教育終了段階の子どもの年齢層別目標における金融リテラシーの状況を把握するために実施されているアンケート調査である。設問の特徴として、金融リテラシーにかかる知識と望ましい行動に関する設問と、お金とくらしに関する行動・考え方等を問う設問で構成されている。本来は、高校1年生を対象とした調査であるが、義務教育終了段階の子どもの金融リテラシーの状況を測ることができるため、経済学習をはじめる前の生徒たちの学習状況を把握するツールとして活用した。設問の中で「中学校」と表記されているものは、「小学校」と読み替えている。今回は、第3学年を対象に実施した。

② 調査結果と考察

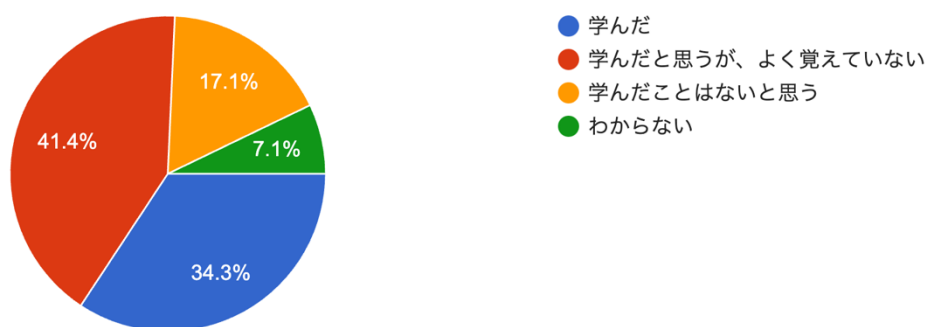
本校生徒にアンケート調査をした結果を概観する。全国平均の数値と比べることで、生徒たちの現在の金融リテラシーを測ることができると考えた。金融リテラシースコアについて、次のようになった。

	全体	家計管理	生活設計	金融取引の基本	金融・経済の基礎	保険	ローンクレジット	資産形成	外部の知見活用
対象者%	56.7	56.4	35.6	64.0	64.8	72.7	34.3	37.9	59.6
全国平均%	60.3	65.6	35.7	62.0	68.8	81.1	42.2	46.9	58.7

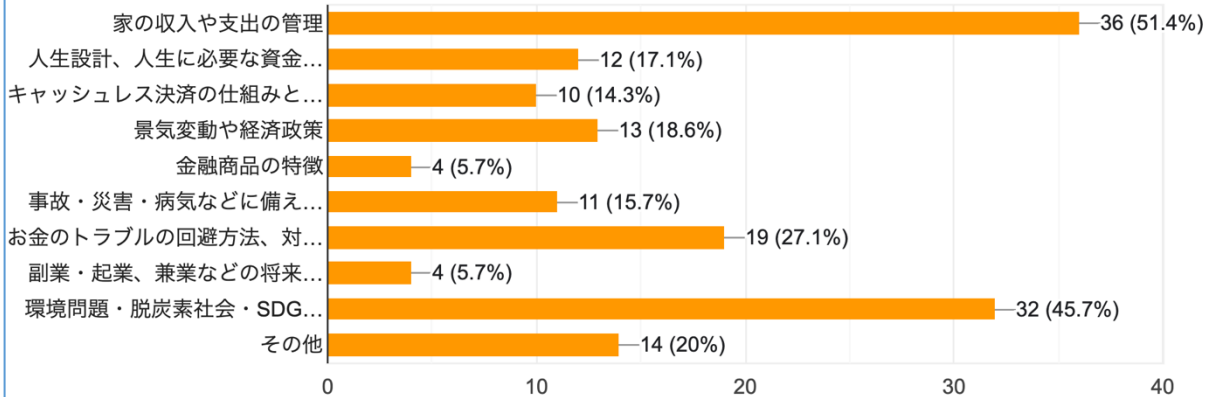
「金融リテラシースコア」

全体として、全国平均と比べると、3.6ポイント低い。全国平均と比べて、ポイントが高い分野は、「金融取引の基礎」(2ポイント)、「外部の知見活用」(0.9ポイント)となっている。全国平均と比べて、ポイントが低い分野は「家計管理」(9.2ポイント)、「生活設計」(0.1ポイント)、「金融・経済の基礎」(4ポイント)、「保険」(8.4ポイント)、「ローンクレジット」(7.9ポイント)、「資産形成」(9ポイント)となっている。学習を通して、金融リテラシーを高めていきたい。

小学校の社会科や技術家庭科、総合的な学習、特活などの授業でお金のことについてまなびましたか



小学校の社会や家庭科、総合、特活などの授業で...だお金のことについて該当するものを選びなさい
70件の回答

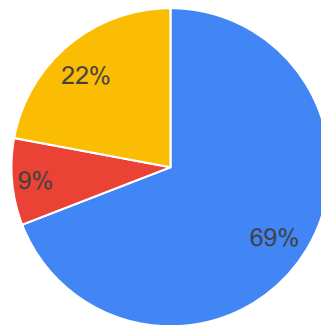


小学校でのお金のことについて学んだ経験としては、34.3%となっている。学習した内容としては、「家の収入や支出の管理」「環境問題・脱炭素社会・SDGsについて」の数値が大きい。小学校では、身近なお金について学習していることがわかった。意識的にお金のことについて学んでいるというより、無意識のうちに学校教育の中でお金に関する学習をしてきたと言える。

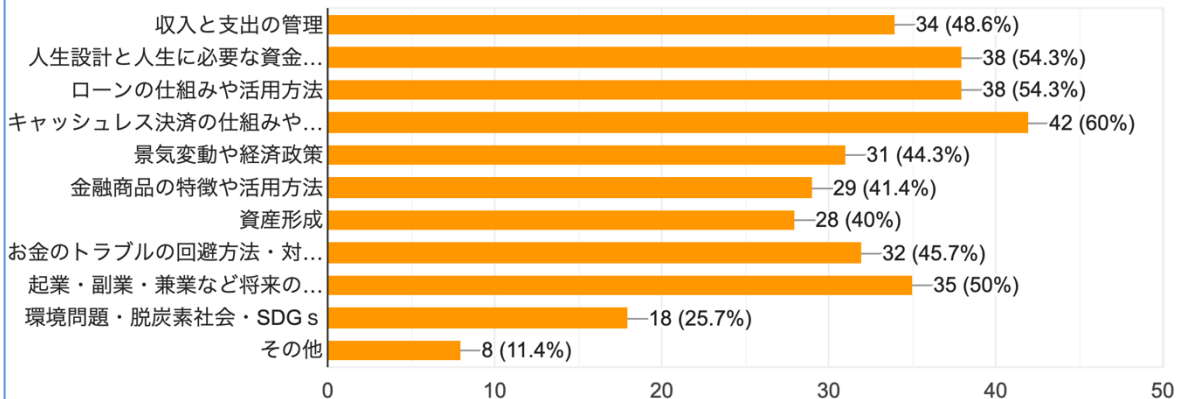
中学3年生となり、授業でお金のことを教えてほしい割合は、69%となっていて、関心が高い。内容について聞くと、バランスよく金融の知識を学びたいと考えていることがわかる。

学校の授業でお金のことについておしえてほしいですか

■ そう思う ■ そう思わない ■ どちらとも言えない



学校の授業で教えてほしいと思うお金のことについて、該当するものを選びなさい
70件の回答



(4) 指導観

①金融リテラシーの育成

金融リテラシーを育成するために、幅広い経済の知識を習得することが必要になるだろう。単元計画に「年齢層別目標」を取り入れることで、金融リテラシーについて幅広く学習できるようにする。ニュースで見られるような経済的な現象は、さまざまな要因が関わっているが、経済学習を始めた生徒にとって、具体的な場면을想定しながら、経済的な概念を身につけることが必要であろう。教科書には、経済の図解が多く掲載されている。それらを活用しながら、経済的な概念を身につけられるようにしていく。

②問題解決的な学習

学習過程として、問題解決的な学習を意識して行うことが大切だと考える。経済的な問題を取り扱うことで、実際の場면을イメージしながら、学習を行うことができる。教科書学習では、経済的な概念がシンプルに学習でき、実際起きている経済的な問題では、経済的な概念が複雑に重なり合っていることを学習できる。問題解決的な学習過程によって、問題解決能力を育成することができ、これはグローバル社会で活躍できる人を育てることにつながるだろう。実際の授業においても、教科書を使用した学習と、実際の経済問題を扱った学習を活動として取り入れていく。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・身近な消費生活を中心に経済活動の意義について理解している。 ・市場経済の基本的な考え方について理解している。その際、市場における価格の決め方や資源の配分について理解している。 ・現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解している。 ・勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の精神について理解している。 ・社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護について、それらの意義を理解している。 ・財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ・対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市場の働きと経済について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。 ・国民生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。 ・新聞などのメディアやインターネットなどの情報手段から経済社会に関する情報を得る習慣を身につける。 ・経済社会の課題について幅広く関心をもつ。 ・少子高齢化やグローバル化、情報化に伴う経済にかかわる問題について関心をもつ。

5. 単元の指導計画(全27時間)

時間	学習内容	主な評価規準	評価の観点			評価方法
			知技	思考	態度	
第1次 私たちの生活と経済						
1	単元の見通しを設定する。 新聞などのメディアやインターネットなどの情報手段から経済社会に関する情報を得る習慣を身につける。	単元の見通しをもち、学習の方向性を定めている。	●	●	●	振り返りシート
2	「経済活動とお金の役割」 財やサービスの有限性、希少性を理解し、よりよい選択をしようとする。お金の役割を理解する。	財やサービスの有限性、希少性を理解し、よりよい選択をしようとする。お金の役割を理解している。	●			ワークシート
3	「お金の使い方と経済の考え方」 効率・公正などの概念を用いてよりよい意思決定ができる。	効率・公正などの概念を用いてよりよい意思決定をしている。		●		ワークシート
4	「価格の働きと経済」 市場経済において価格が希少性のある資源を効率よく配分する働きをもつことを理解する。	市場経済において価格が希少性のある資源を効率よく配分する働きをもつことを理解している	●			ワークシート
第2次 消費者と経済						
5	「家計の収入と支出」 家計の収入・支出について理解する。さまざまな決済の仕組みと方法について理解する。各種カード、スマートフォンなどを用いた様々な支払い方法のしくみを理解する。個々人の消費や支出の行動が現在および将来の社会に与える影響について考え、その影響を踏まえて行動する態度を身につける。	個々人の消費や支出の行動が現在および将来の社会に与える影響について考え、その影響を踏まえて行動する態度を身につけている。	●		●	ワークシート
6	「消費生活と流通の関わり」 環境や社会に配慮した消費生活ができる。 消費生活に関する情報を活用し、比較・選択する力を身につける。	消費生活に関する情報を活用し、比較・選択する力を身につけている。		●		ワークシート

7	「消費者問題と政府の取り組み」 消費者基本法について理解し、消費者の権利や責任について知り、日常生活に活かす態度を身につける。売買契約のしくみや契約を守ることの重要性を理解する。製造物責任について理解し、商品の購入・使用の際に活かす態度を身につける。	消費者基本法について理解し、消費者の権利や責任について知り、日常生活に活かす態度を身につけている。			●	振り返りシート
第3次 企業と経済						
8	「わたしたちの生活と企業」 企業の機能と役割、社会的責任について、模擬企業づくりなどを通じて実践的に理解する。起業の意義を理解する。	企業の機能と役割、社会的責任について、模擬企業づくりなどを通じて実践的に理解している。	●			ワークシート
9	「企業活動のしくみ」 企業が行うさまざまな資金調達方法について理解する。企業は調達した資金で設備投資を行っていることを理解する。模擬企業づくりなどを通じ、会社経営の仕組みや工夫、努力の必要性を理解する。	模擬企業づくりなどを通じ、会社経営の仕組みや工夫、努力の必要性を理解している。	●			ワークシート
10	「金融のしくみとはたらき」 金融機関の種類と機能について理解する。間接金融、直接金融の仕組みについて理解する。起業を支える金融の役割を理解する。	金融機関の種類と機能について多面的・多角的に考察し、表現している。		●		ワークシート
11	「ライフプランからお金について考える」 継続して貯蓄・運用に取り組む態度を身につける。金利計算（複利）を理解する。金融商品には株式や債券などがあることを理解する。リスクとリターンの関係について理解する。お金を投資することの生活設計上の意味を理解する。	継続して貯蓄・運用に取り組む態度を身につけている。		●	●	ワークシート

12	「企業競争の役割」 企業が競争を通して発展していくことを理解し、独占や寡占がもたらす弊害について考察できる。	企業が競争を通して発展していくことを理解し、独占や寡占がもたらす弊害について多面的・多角的に考察し、表現している。		●		ワークシート
13	「働くことの意義と労働者の権利」 勤労の意義と社会における役割、および勤労の権利と義務について理解する。労働者の権利と義務について理解する。	労働者の権利と義務について多面的・多角的に考察し、表現している。		●		ワークシート
14	「労働環境の変化と私たち」 労働と賃金ややりがいとの関係について理解する。	労働と賃金ややりがいとの関係について理解している。			●	ワークシート
15	「企業の社会的責任」 企業の機能と役割、社会的責任について、模擬企業づくりなどを通じて実践的に理解する。	企業の機能と役割、社会的責任について、模擬企業づくりなどを通じて実践的に理解している。	●			ワークシート
第4次 これからの日本経済						
16	「景気の変動とその影響」 景気や物価の変動が人々の生活に影響を及ぼすことを理解する。現実の経済の動きと経済指標の関係を理解する。	現実の経済の動きと経済指標の関係を多面的・多角的に考察し、表現している。		●		ワークシート
17	「日本銀行と金融政策」 中央銀行の機能について理解する。中央銀行が行う金融政策について理解する。	中央銀行が行う金融政策について理解している。	●			ワークシート
18 本時	「グローバル化と日本経済」 家計、企業、金融機関、政府、海外の間の財・サービスやお金の流れを理解する。円高・円安の意味と人々の生活への影響を理解する。グローバル化の意味と影響を理解する。	円高・円安によって、家計、企業、金融機関、政府、海外の間の財・サービスやお金の流れや影響を多面的・多角的に考察し、表現している。		●		ワークシート

19	「これからの日本の経済と私たち」 経済社会の課題について多面的・多角的に考察する態度を身につける。	経済社会の課題について多面的・多角的に考察し、表現している。		●		ワークシート
20~21	パフォーマンス課題 生活設計・マネープランシート	生活設計の必要性を理解し、自分の価値観に基づいて生活設計を立てている。	○	○		
第5次 財政						
22	「私たちの生活と財政」 社会保障や公共サービスなど、政府の経済活動の意義について理解する。	社会保障や公共サービスなど、政府の経済活動の意義について理解している。	●			ワークシート
23	「国の支出と収入」 財政および租税の意義と役割、国民の納税の義務について理解する。	財政および租税の意義と役割、国民の納税の義務について理解している。	●			ワークシート
24	「社会資本の役割と環境への取り組み」 経済活動に対する規制および規制緩和の意義について理解する。	経済活動に対する規制および規制緩和の意義について理解している。	●			ワークシート
25	「社会保障と私たちの生活」 社会保障について、その基本的な内容を理解する。事故や災害、病気などのリスクや負担を軽減させるための手段の一つに保険があることを理解する。	事故や災害、病気などのリスクや負担を軽減させるための手段の一つに保険があることを理解している。	●			ワークシート
26	「これからの日本の財政」 政府の経済政策や財政の状況と暮らしとの関係について理解する。	政府の経済政策や財政の状況と暮らしとの関係について、多面的・多角的に考察し、表現している。		●		ワークシート
27	単元の振り返り 新聞などのメディアやインターネットなどの情報手段から経済社会に関する情報を得る習慣を身につける。経済社会の課題について幅広く関心をもつ。	経済社会の課題について幅広く関心をもっている。			○	

●…形成的評価(指導に活かす評価) ○…総括的評価(記録に残す評価)

6. 本時の展開

(1) 本時の目標

円高・円安によって、家計、企業、金融機関、政府、海外の間の財・サービスやお金の流れや影響を多面的・多角的に考察し、表現する。

(2) 本時の評価規準

円高・円安によって、家計、企業、金融機関、政府、海外の間の財・サービスやお金の流れや影響を多面的・多角的に考察し、表現している。

(3) 本時の学習とグローバル市民コモン・ルーブリックとの関連

① 項目

探究力のある人

② 内容

自らの問題として、身近なコミュニティから課題を見出し、その解決に向けて取り組み、振り返りながら追究することができる。

(4) 展開

学習過程	学習活動および内容	指導上の留意点	評価の観点・方法
導入 5分	<p>・本時に関わる金融リテラシーを確認する。</p>		
<p>探究の問い「円高や円安は、私たちの生活にどのような影響を与えているのか？」</p>			
展開 40分	<p>・円高・円安のしくみを、金利、物価上昇率と組み合わせて理解する。</p> <p>・円安や円高のとき、家計、企業、政府、金融機関、海外の間の財やサービスのお金の流れを経済の循環図で表現する。</p> <p>・個人で「経済の循環図」に書き込んだあと、班で交流を行う。</p> <p>・現在を生きる私たちにとって、円高・円安のどちらが幸福を最大化できるかについて考察する。</p>	<p>・円とドルの需要と供給に基づいて、円高・円安が決定されることを説明する。</p> <p>・</p> <p>・自動車会社と電力会社を例にして、それぞれの企業と、他の主体との関係を図示するようにする。</p> <p>・物価上昇率や株価などに着目して、考察させる。</p> <p>・日本の産業の中核となっているのは輸出企業である一方、私たちの生活の財やサービスは海外から輸入しているものが多いことに気づかせる。</p> <p>・それぞれの立場によって、為替相場による影響が異なることに気づかせる。</p>	<p>・ワークシート(思考)</p>
まとめ 5分	<p>・振り返りシートに本時のまとめをする。</p>	<p>・金融リテラシーについて、目標をどの程度達成できたかを振り返るようにする。</p>	

(5) 準備物

教科書、資料集、Chromebook

7. 参考文献

- ・唐木清志 編(2023)『社会科の「問題解決的な学習」とは何か』東洋館出版社
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター(2020)『「指導と評価の一体化」のための学習指導に関する参考資料【中学校 社会】』東洋館出版社
- ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』文部科学省,平成 29 年 7 月
- ・長瀬勝彦(2016)『改訂新版 図解 1時間でわかる経済のしくみ』ディスカヴァー・トゥエンティワン
- ・金融広報中央委員会「15歳のお金とくらしに関する知識・行動調査 2023年」
- ・金融広報中央委員会(2023)『金融教育プログラム—社会の中で生きる力を育む授業とは—』
- ・小塩隆士(2024)『高校生のための経済学入門【新版】』ちくま新書
- ・小塩隆士(2024)『経済学の思考軸—効率か公平かのジレンマ』ちくま新書

8. 資料

コモン・ルーブリック(確定)

項目	高等学校	中学校	小学校	
			高学年	低学年
主体的な人	これまでの経験や学んだこと, 新たな試みの視点 などから目標を持ち, その達成に向けて 自主的に粘り強く, 創造的に 取り組むことができる。	これまでの経験や学んだこと, 試みの視点 などから目標を持ち, その達成に向けて 自主的に粘り強く 取り組むことができる。	これまでの経験や学んだこと, 試みの視点 などから 目標を持ち , その達成に向けて 自主的に 取り組むことができる。	これまでの経験や学んだことから 目標を持ち , その達成に向けて 進んで 取り組むことができる。
つながりのある人	これまでの経験や知識を関連づけて 創造的に 物事を考え, 周りの人たちや異なる文化圏の人たちとの協働を構想・実践 することができる。	これまでの経験や知識を関連づけて物事を考え, 地域社会の人たちとの協働を構想・実践 することができる。	これまでの経験や知識を関連づけて物事を考え, 学校の人たちと協力して 取り組むことができる。	これまでの経験や知識をもとに物事を考え, 学級の人たちと力を合わせて 取り組むことができる。
探究力のある人	自らの問題として, 身近なコミュニティや世界の出来事 から課題を見出し, その解決に向けて取り組み, 振り返りながら, 創造的に 追究することができる。	自らの問題として, 身近なコミュニティ から課題を見出し, その解決に向けて取り組み, 振り返りながら 追究することができる。	自らの問題として, 身の回り から課題を見出し, その解決に向けて取り組み, 振り返り することができる。	自らの問題として, 身の回り の課題に気づき, その解決に向けて取り組むことができる。
寛容な人	他者の意見や考え方に対して 共感と傾聴 の姿勢で接し, 多様性を尊重しながら相互理解 を深めることができる。	他者の意見や考え方に対して 共感 の姿勢で接し, 多様性を受け入れ相互理解 を進めることができる。	他者の意見や考え方に対して 共感の姿勢 で接し, 相互理解 を進めることができる。	他者の意見や考えに対して 共感の姿勢 で接することができる。